

大自在

保険業法改正
は、やはり心配
された通り、一
部の詐欺的商法
など曲がった牛
の角を矯めるこ

とに目を向けるあまり、「互助」とか「助け合い」という、肝心な牛までも殺してしまうことになりそうだ▼互いに助け合うため自主的につくっている小規模な共済（無認可共済）も、会員千人を超すと、四月の法改正から半年、特定保険業者の届けを出すか、解散するか、先週末が判断の期限だった。県内の知的障害者と親のつくる育成会互助会（小出隆司理事長、会員千九百人）も金融庁に苦渋の届け出を済ませた▼小出さんらが県内を奔走、四年前にやっと設立し、なんとか軌道に乗せかかった矢先、寝耳に水の法改正だった。年間一万八千円の会費で入院付き添い費用や差額ベッド料の一部を給付する。民間保険に加入の困

難な知的障害者らにとってささやかだが、心強い助っ人▼といっても改正法のいうように、この二年間に保険会社に衣替えする体力もないので、来年九月、特定保険業者を返上、無念の思いで互助会を閉じる。「やむなく互助会をつくった経緯と苦労を考えると、結果的に保険会社に引き継がれたとしても、それでいいという話では済まない。とんだとぼっち」と小出さん▼互助会の全国団体や同じ立場にある山仲間の遭難対策基金などが、保険業になじまない自主共済の特殊な事情を金融庁に話し、適用除外を求める署名簿を提出してきた。しかし色よい回答はない▼もともとはオレンジ共済のような違法から消費者を守るのが法改正の狙いだった。それが、弱い立場のもの同士、できる範囲の負担で相互に扶助し、なんとか自ら立とうとする精神を萎えさせてどうする。